

令和5年10月6日

令和5年度病害虫発生予察情報 第7号 (10月予報)

群馬県農業技術センター
環境部 発生予察係
(病害虫防除所)
TEL 0270-62-1059
FAX 0270-20-8016

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
果樹全般	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	栽培地帯全域	—	やや少
	ハダニ類	栽培地帯全域	—	並
リンゴ	斑点落葉病	栽培地帯全域	—	並
	炭疽病	栽培地帯全域	—	並
	スモモヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
	キンモンホソガ	栽培地帯全域	—	並
野菜類 花き類	アブラムシ類	栽培地帯全域	—	並
	ハスモンヨトウ	平坦地域	—	やや多
	オオタバコガ	栽培地帯全域	—	並
施設果菜類	コナジラミ類	施設栽培地帯全域	—	やや多
キュウリ	べと病	施設栽培地帯全域	—	並
	うどんこ病	施設栽培地帯全域	—	並
	褐斑病	施設栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	施設栽培地帯全域	—	並
ネギ	さび病	栽培地帯全域	—	並
	シロイチモジヨトウ	栽培地帯全域	—	やや多
	ネギアザミウマ	栽培地帯全域	—	並

(発生時期の—は連続発生)

【主な病害虫の発生予報】

I) 野菜類・花き類

ハスモンヨトウ	発生地域	発生時期	発生量
	平坦地域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 県内のフェロモントラップ調査では、9月の総誘殺数が4地点とも平年より多い。
- (2) 向こう1か月の気象予報（10月5日発表）によると、天気は数日の周期で変わり、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%である。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 老齢幼虫になると昼間は株元に隠れて夜間に這い出して食害するようになる。このため薬剤がかかりにくくなるため、若齢期防除に努める。
- (2) 露地栽培では今後の気温の低下に伴い発生量は減少すると考えられるが、現在の発生量がやや多いため注意が必要である。
- (3) 施設栽培では現在成虫が多い時期であるため、施設の開口部に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。また、施設内で幼虫を確認した場合は初期防除を徹底する。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

II) 施設果菜類

コナジラミ類	発生地域	発生時期	発生量
	施設栽培地帯全域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は抑制キュウリで平年並からやや多い。
- (2) 向こう1か月の気象予報（10月5日発表）によると、天気は数日の周期で変わり、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：生育適温20～30℃で、乾燥条件の場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 県内の一部でキュウリ退緑黄化病が発生しているため、原因となるタバココナジラミの防除に気を付ける。またタバココナジラミはトマト黄化葉巻病の原因にもなる。発病株を発見した場合は直ちに抜き取り、施設外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) 施設の開口部は全て防虫ネット（目合い0.4mm以下が望ましい）を設置して、施設内への侵入を防止する。
- (3) 多くの植物に寄生するため、ほ場及び周辺の雑草は除去する。
- (4) 黄色粘着板を設置し、成虫の発生状況を把握しながら適期防除を行う。
- (5) 薬剤散布は幼虫が寄生している葉裏に薬剤が充分かかるように行う。また薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布は避ける。

Ⅲ) ネギ

	発 生 地 域	発 生 時 期	発 生 量
シロイチモジヨトウ	栽培地帯全域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は、平年よりやや多い。
- (2) 県内のフェロモントラップ調査では、9月の総誘殺数が2調査地点とも平年より多い。
- (3) 向こう1か月の気象予報（10月5日発表）によると、天気は数日の周期で変わり、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%である。

《発生しやすい条件：気温が高いと世代間が短縮し発生回数が多くなり、被害が多くなる。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場をよく見回り、葉の先端部のかすり状の症状や白変葉、若齢幼虫の発見に努め、早期防除を行う。
- (2) 卵塊や若齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で処分する。
- (3) 中老齢幼虫が葉の内部に食入した後は農薬の効果が低下するので、若齢期の防除適期を逃さないよう注意する。
- (4) 雑草にも寄生するので、ほ場周辺の雑草を除去する。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
果樹全般	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	—	やや少	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年よりやや少ないが、9月の誘殺数は7～8月より増加しているので注意する。
	ハダニ類	—	並	現在までの発生量は平年並。
リンゴ	斑点落葉病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	炭疽病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	スモモヒメシンクイ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並。
	キンモンホソガ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並。
野菜類 花き類	アブラムシ類	—	並	各種トラップ調査による有翅アブラムシ飛来数は平年並～やや少ない。
	オオタバコガ	—	並	幼虫は茎葉・蕾・花・幼果に食入する。組織内に入り込まれてからでは防除が困難になるため注意する。
キュウリ	べと病	—	並	現在までの発生量は平年並。肥料切れや草勢の衰えにより発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。また、多湿管理下で発生量が増加するため、適切な湿度管理を行う。
	うどんこ病	—	並	現在までの発生量は平年並。多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	褐斑病	—	並	現在までの発生量は平年並。高温多湿条件下で発生が急激に増加するため、適切な湿度管理を行う。
	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病の原因となるため、発生に注意する。
ネギ	さび病	—	並	現在までの発生量は平年並。春および秋に比較的低温で降雨が多いと多発する恐れがある。肥料切れにより発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。
	ネギアザミウマ	—	並	現在までの発生量は平年並。春および秋の乾燥条件下で発生が多くなるので注意する。

【今月の気象情報】

関東甲信地方 1か月予報 (10月7日から11月6日までの天候見通し)

令和5年10月5日
気象庁 発表

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	20	40	40
降水量	関東甲信地方	30	40	30
日照時間	関東甲信地方	30	40	30

＜概要＞

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量および日照時間は平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目と2週目は高い確率50%、2週目は平年並の確率50%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜参考＞ 前橋地方気象台観測平年値(10月)

	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(時間)
1半旬	19.5	26.9	22.0
2半旬	18.7	27.7	22.9
3半旬	17.7	24.7	24.6
4半旬	16.6	21.8	25.5
5半旬	15.6	19.9	26.8
6半旬	14.5	17.0	34.7

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談下さい。
また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

- ◆ 農林水産省 農薬コーナー (農薬に関する様々な情報)

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

- ◆ 農薬登録情報提供システム (最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等)

<https://pesticide.maff.go.jp>

- ◆ 群馬県 農作物病害虫・雑草防除指針

<https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html>

- ◆ 群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧

<https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

- ◆ ぐんま病害虫ライブラリー

<https://sites.google.com/view/g-byougai>



病害虫発生予察情報
一覧はこちら！